

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月8日

【四半期会計期間】 第70期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 オルガノ株式会社

【英訳名】 ORGANO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 内 田 裕 行

【本店の所在の場所】 東京都江東区新砂1丁目2番8号

【電話番号】 03(5635)5105

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 秋 元 英 良

【最寄りの連絡場所】 東京都江東区新砂1丁目2番8号

【電話番号】 03(5635)5105

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 秋 元 英 良

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第1四半期 連結累計期間	第70期 第1四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	12,156	11,201	62,096
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	594	1,218	1,170
当期純利益又は四半期純損失( ) (百万円)	360	1,293	664
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	240	1,333	970
純資産額 (百万円)	44,179	42,613	44,252
総資産額 (百万円)	79,754	73,518	76,852
1株当たり当期純利益金額又は 四半期純損失金額( ) (円)	6.26	22.46	11.53
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	55.4	58.0	57.6

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、また、第69期第1四半期連結累計期間及び第70期第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、平成26年4月1日付での当社グループ再編の実施に伴い、下記の完全子会社7社が、当社を存続会社とする吸収合併により消滅いたしました。

(水処理エンジニアリング及び機能商品 - 国内販売会社)

(連結子会社)

オルガノ北海道株式会社

オルガノ東北株式会社

オルガノ東京株式会社

オルガノ中部株式会社

オルガノ関西株式会社

オルガノ九州株式会社

(非連結子会社)

オルガノ山下薬品株式会社

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな景気回復に向いながらも、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動や、成長に減速がみられる中国をはじめとした新興国経済の停滞などにより、全体として先行き不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く市場環境は、国内では企業の生産活動は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響がみられ、設備投資も未だ本格的な回復には至らず、主たる海外市場であるアジア地域においては、価格競争が一段と激しさを増しており、引き続き厳しい状況にあります。

このような状況の下、当社グループは、「水処理事業分野における顧客のあらゆるニーズに対して、ワンストップソリューション(One Stop Solutions)が提供できる企業グループの実現」を目指し、事業ポートフォリオの転換をさらに加速させ、機動的な開発・製造・営業体制の構築を目指すとともに、一層のコストダウン、工事力の強化により、収益の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間は売上高11,201百万円(前年同期比7.9%減)、営業損失1,178百万円(前年同期は営業損失711百万円)、経常損失1,218百万円(前年同期は経常損失594百万円)、四半期純損失1,293百万円(前年同期は四半期純損失360百万円)となりました。

事業のセグメント別業績は次のとおりであります。

#### 【水処理エンジニアリング事業】

当事業におきましては、国内では受注高は一般産業分野を中心に増加しましたが、実際の売上計上が第2四半期以降になる見込みであり、売上高はこれらの状況に加え、メンテナンス、改造工事の延期などにより減少しました。一方、海外では電子産業分野の設備投資の減少などにより、受注高及び売上高ともに減少しました。この結果、売上高6,901百万円(前年同期比12.9%減)、営業損失1,174百万円(前年同期は営業損失767百万円)となりました。

#### 【機能商品事業】

当事業におきましては、顧客工場の操業度が緩やかに回復している一方で、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響などにより、受注高及び売上高はほぼ前連結累計期間並みとなりました。利益につきましては、売上構成の変化などにより減少しました。この結果、売上高4,300百万円(前年同期比1.6%増)、営業損失4百万円(前年同期は営業利益55百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ3,333百万円減少し、73,518百万円となりました。これは主に仕掛品を中心としたたな卸資産2,125百万円の増加に対し、現金及び預金2,459百万円、受取手形及び売掛金2,908百万円の減少によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ1,694百万円減少し、30,905百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金636百万円、賞与引当金535百万円、借入金406百万円の減少によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ1,638百万円減少し、42,613百万円となりました。これは主に配当金の支払及び四半期純損失の計上に伴う利益剰余金1,597百万円の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は357百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員の状況

連結会社の状況

当第1四半期連結累計期間において、連結会社の従業員数の著しい増減はありません。

提出会社の状況

当社は平成26年4月1日付で、当社を存続会社とする完全子会社7社を吸収合併するグループ再編を実施いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間において、従業員数が水処理エンジニアリング事業において84名、機能商品事業において201名、全社（共通）において62名増加し、1,053名となっております。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	126,960,000
計	126,960,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	57,949,627	57,949,627	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	57,949,627	57,949,627		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年6月30日	-	57,949	-	8,225	-	7,508

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

(平成26年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 347,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 57,073,000	57,073	
単元未満株式	普通株式 529,627		
発行済株式総数	57,949,627		
総株主の議決権		57,073	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社の自己株式559株が含まれております。  
 2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権3個)が含まれております。

【自己株式等】

(平成26年3月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) オルガノ株式会社	東京都江東区 新砂1丁目2番8号	347,000		347,000	0.60
計		347,000		347,000	0.60

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、聖橋監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	10,268	7,808
受取手形及び売掛金	24,162	21,254
リース投資資産	9,312	9,133
商品及び製品	3,553	3,795
仕掛品	1,616	3,476
原材料及び貯蔵品	993	1,016
繰延税金資産	611	620
その他	1,273	1,509
貸倒引当金	108	107
流動資産合計	51,683	48,508
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	17,571	17,597
減価償却累計額	10,692	10,820
建物及び構築物（純額）	6,878	6,777
機械装置及び運搬具	5,029	5,027
減価償却累計額	4,281	4,324
機械装置及び運搬具（純額）	747	702
土地	12,500	12,500
建設仮勘定	25	29
その他	4,276	4,283
減価償却累計額	3,627	3,667
その他（純額）	649	616
有形固定資産合計	20,802	20,625
<b>無形固定資産</b>	370	359
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,339	1,310
繰延税金資産	2,352	2,384
その他	432	459
貸倒引当金	128	128
投資その他の資産合計	3,996	4,025
固定資産合計	25,169	25,010
資産合計	76,852	73,518



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	12,031	11,394
短期借入金	7,677	7,671
未払法人税等	439	169
前受金	1,553	1,457
繰延税金負債	8	6
賞与引当金	844	309
製品保証引当金	145	165
工事損失引当金	171	251
その他	1,870	1,865
流動負債合計	24,742	23,291
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2,552	2,152
繰延税金負債	6	6
退職給付に係る負債	5,171	5,312
その他	127	142
固定負債合計	7,857	7,613
負債合計	32,599	30,905
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,508
利益剰余金	29,325	27,727
自己株式	328	329
株主資本合計	44,730	43,131
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	207	226
繰延ヘッジ損益	4	0
為替換算調整勘定	54	25
退職給付に係る調整累計額	745	718
その他の包括利益累計額合計	478	517
純資産合計	44,252	42,613
負債純資産合計	76,852	73,518

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	12,156	11,201
売上原価	9,461	9,120
売上総利益	2,694	2,080
販売費及び一般管理費	3,406	3,259
営業損失( )	711	1,178
営業外収益		
受取利息	11	5
受取配当金	9	9
固定資産賃貸料	7	6
為替差益	123	-
その他	18	13
営業外収益合計	170	34
営業外費用		
支払利息	27	18
持分法による投資損失	20	31
為替差損	-	16
その他	5	7
営業外費用合計	52	74
経常損失( )	594	1,218
特別利益		
固定資産売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産廃棄損	1	0
施設利用権評価損	-	0
その他	0	-
特別損失合計	1	0
税金等調整前四半期純損失( )	595	1,219
法人税等	234	74
少数株主損益調整前四半期純損失( )	360	1,293
四半期純損失( )	360	1,293

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	360	1,293
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	17
繰延ヘッジ損益	1	4
為替換算調整勘定	114	79
退職給付に係る調整額	-	26
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	119	39
四半期包括利益	240	1,333
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	240	1,333
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	
連結の範囲の重要な変更	(合併による減少) オルガノ北海道株式会社、オルガノ東北株式会社、オルガノ東京株式会社、オルガノ中部株式会社、オルガノ関西株式会社、オルガノ九州株式会社

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	
(会計方針の変更)	「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法に変更いたしました。 退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。 この結果、当第1四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が151百万円増加し、利益剰余金が97百万円減少しております。また、この変更による損益への影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項(法定実効税率を使用する方法)に準じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入に対して債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
従業員の銀行借入金に 対する保証債務	9百万円	8百万円
銀行借入に対する連帯保証		
PTラウタン・オルガノ・ ウォーター	- ( - )	50百万円 (0百万米国ドル)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	253百万円	237百万円
のれんの償却額	4百万円	4百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	345	6	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	230	4	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額  (注)
	水処理エンジ ニアリング 事業	機能商品 事業	計	
売上高				
(1) 外部顧客に対する売上高	7,921	4,234	12,156	12,156
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高				
計	7,921	4,234	12,156	12,156
セグメント利益又は損失( )	767	55	711	711

(注) セグメント利益及びセグメント損失は、営業利益並びに営業損失ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業損失との間に差異はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、当社の連結子会社であるオルガノ(アジア)SDN.BHD.及びオルガノ(タイランド)CO.,LTD.の株式を追加取得したことから「水処理エンジニアリング事業」において、のれんが発生しました。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、73百万円であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額  (注)
	水処理エンジ ニアリング 事業	機能商品 事業	計	
売上高				
(1) 外部顧客に対する売上高	6,901	4,300	11,201	11,201
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高				
計	6,901	4,300	11,201	11,201
セグメント損失( )	1,174	4	1,178	1,178

(注) セグメント損失は、営業損失ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業損失との間に差異はありません。

(企業結合等関係)

完全子会社7社の吸収合併

当社は、平成25年12月24日開催の取締役会において、当社を存続会社として完全子会社7社を吸収合併することを決議し、平成26年4月1日付で吸収合併いたしました。

1 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

被結合企業（連結子会社）

オルガノ北海道株式会社

水処理設備、装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理薬品の販売

オルガノ東北株式会社

水処理設備、装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理薬品の販売

オルガノ東京株式会社

水処理設備、装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理薬品の販売

オルガノ中部株式会社

水処理設備、装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理薬品の販売

オルガノ関西株式会社

水処理設備、装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理薬品の販売

オルガノ九州株式会社

水処理設備、装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理薬品の販売

被結合企業（非連結子会社）

オルガノ山下薬品株式会社

水処理薬品、水処理装置、機能材の販売及び各種メンテナンス

(2) 企業結合日

平成26年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、上記完全子会社7社を消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

変更ありません。

(5) 取引の目的を含む取引の概要

当社グループは、これまで地域ごとのニーズに機動的に対応するべく、各地域に設立した子会社による営業・販売体制をとってまいりました。しかし、各種産業における国内生産拠点の統廃合・海外移転の流れをはじめ、当社グループを取り巻く市場環境は大きく変化しつつあります。

当社グループは、これらの変化に適切に対応でき、今後の更なる成長を実現させる体制・基盤づくりを検討してまいりましたが、この度経営資源の集中と効率化、市場での競争力強化による中長期的な事業拡大を目的として、これら子会社を吸収合併することといたしました。

合併により、オルガノ株式会社の本社並びに各地域の支店を国内の営業・販売窓口とし、お客様へのより一層のサービス向上、全国各地域における事業拡大を推進しております。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日公表分）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	6.26円	22.46円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額( )(百万円)	360	1,293
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額( )(百万円)	360	1,293
普通株式の期中平均株式数(千株)	57,609	57,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、また、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 8 日

オルガノ株式会社  
取締役会 御中

### 聖橋監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 松 田 信 彦 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 邦 夫 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 濱 田 尊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオルガノ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オルガノ株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。